

世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報 2019.4.15 No.348 東京・羽村平和委員会発行



横田オスプレイが機関銃を下に向け住宅地上空飛行に抗議

4月12日、横田基地の撤去を求める西多摩の会は、横田の特殊戦機オスプレイが、期間銃の銃口を下に向け、住宅地上空をくり返し飛行していたことに対し、福生市内の横田防衛事務所に4人で抗議に行きました。宛先は、在日米軍司令官、第374空輸航空団司令官。嚴重に抗議しただちにやめることを要求。さらに謝罪を求めました。

対応してくれた所長は、所長室で話はよく聞いてくれました。所長室に入れぬ所長もいましたが、今はお茶もだしてくれませう。私たちが、抗議に来たことは、伝えてくれるでしょう。



訂正が幾つか、あります

ミニ情報ナンバー345で、見出しに 横田オスプレイ大砲と機関銃を下に向けて離陸、と書きましたが、大砲は誤りで薬きょう排出口でした。右写真を参照してください。

ミニ情報ナンバー237のパラシュート降下の見出しの中で、4月1日に1人とかきましたが、防衛局職員が2人の降下を目視していたので、4月1日は2人に訂正です。



12日、横田基地の土砂が、所沢通信基地に搬入強行された

米軍が、横田基地北側の方の外周道路の付け替え工事で発生した土砂を、地元住民の反対を押し切って所沢通信基地へ強行搬入しました。所沢通信基地の搬入ゲート前には、市内の平和、住民団体が抗議のスタンディングを行いました。延べ70人が参加しました。

12日、横田基地から11時から11時30分の間に、3台のダンプが黒い土を積んで出ていくのを目撃しました。

所沢市中心部をダンプが連日120台！ 米軍が横田基地の土砂を所沢通信基地に搬入すると通告

工期1年間

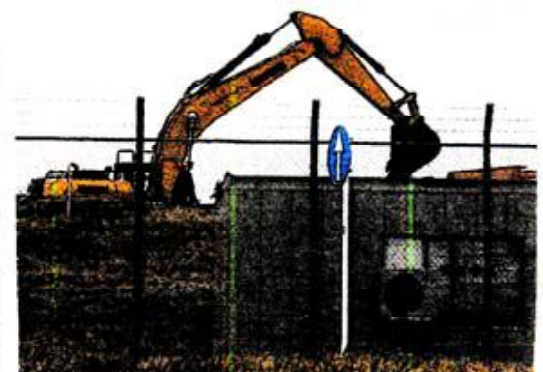
37000立方メートル

縦100メートル、横120メートル
野球場くらいの広さに高さ3メートルの壁

心配ないの？

土壌の汚染

私たちは、土砂搬入に反対です。



オスプレイから市民のいのちを守る所沢連絡会 連絡先：TEL 090-6143-2270

平和新聞4月15日号に、吉田敏浩さんの記事が出ています。

吉田さんの著書、横田空域の書評が、赤旗の4月14日に掲載されました。

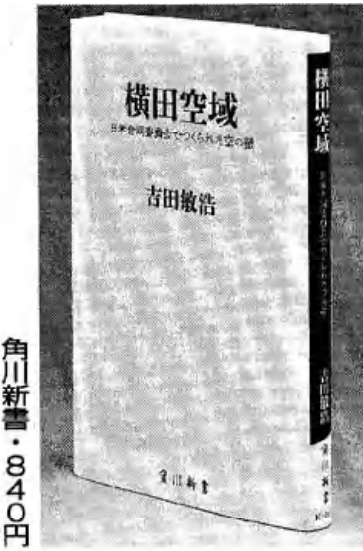
米軍に奪われた日本の空の主権

著

吉田敏浩

横田空域は東京、神奈川、埼玉、群馬、栃木、福島、新潟、長野、山梨、静岡の1都9県に及ぶ広大な地域の上空を覆う。高度約2450mから約7000mまで6段階に設定されている。横田空域の航空管制は米軍が握っている。民間航空機は許可なしに飛行できず、占領

されているのと同じだ。その横田空域内では、米軍がやりたい放題だ。本書は、東京都心にある麻布米軍ヘリ基地、横田基地、群馬県の戦闘機低空飛行などがリアルに書かれている。昨年4月5日、米空軍CV22オスプレイが横田基地に飛来、10月1日に正式配備された。私



角川新書・840円

よしだ・としひろ
57年生まれ。ジャーナリスト。『日米合同委員会』の研究』

は、米空軍横田基地の近くに住んでいる。米軍機がわが物顔で住宅地の上空を昼も夜も低空で飛行訓練し、離着陸訓練や周辺での旋回飛行訓練も激しい。訓練は午後4時頃から夜9時半頃まで行われる。パラシュート降下訓練も毎年数百人規模で行われ、最近では事故が多発しているが、本書では詳しく取り上げられている。私は最近、群馬に行き、車窓から赤城山を見て、米軍戦闘機の標的に見立てられた円形の建物を見た。低空訓練の様子が浮かんできた。

米軍は日本各地で米軍施設や訓練区域外で、低空飛行訓練などを行っている。しかし、これに日本の法令上の根拠はない。1960年、日本政府は国会で「米軍は」上空に対してもその区域内で演習をする取り決めになっている」と答弁。73年の外務省の機密文書「日米地位協定の考え方・初版」でも「米軍は」通常の軍隊としての活動（例えば演習）を施設・区域外で行うことは、協定の予想しないところ」としている。その考え方が180度変わったのは、在日米軍高官と日本の高級官僚によって構成される日米合同委員会で、アメリカの都合の良いように解釈が変えられてきたからだ。国会で承認されていない合意によって、日本の主権が奪われている。本書で学び、主権を取り戻そう。

評者 高橋美枝子 羽村平和委員会役員